

市民総参加のまちづくりサロン

# 意見・提言のまとめ

平成18年度  
～市民総参加のまちづくりサロンから～

## はじめに

「市民総参加のまちづくりサロン」は、テーマに基づき市民が自由に発言できる場を設置することにより、市民のまちづくりに対する意識を高めることを目的に今年度から始まりました。進行方法は参加者が自由に決め、最終的な結論も参加者自身が決めるという、今までにないスタイルで、参加者、事務局とも進め方を模索しながらの会議となりました。

会議は計6回行われ、第1回、第2回は主に意見交換や進行方法について話し合い、第3回～6回までは参加者が下記の3つのテーマを設定し、それぞれ希望するグループに分かれての進行となりました。

- ① 子育てしやすい環境づくり
- ② ごみ減量と私たちの暮らし
- ③ 市民に親しまれる新病院

参加者はこのテーマに基づき真剣に話し合い、ここで出た意見や提言を岡谷市の将来に役立てて欲しいと考えています。今回はサロンを通しての意見・提言をまとめましたので、ここに報告いたします。

## 目次

①子育てしやすい環境づくり……………	1～2
②ごみ減量と私たちの暮らし……………	3～6
③市民に親しまれる新病院……………	7～8
その他の意見……………	9～10

## 意見・提言のまとめ

子育てしやすい環境づくりグループは、主に2つのテーマについて話し合いました。一つは子育てを取り巻く環境や支援体制の整備。もう一つは子育て中の親の意識についてです。

子育てする親への支援体制は徐々に整いつつあります。例えば岡谷市は他の市町村に比べ乳幼児に対する補助が整っていますが、働きたい人に対するサポートについては、まだまだと考えられます。また子育て中の親の意識では、最近の親は子どもを育てることを以前ほど重要に考えていないこと。また親自身の意識を変えようと研修会などを計画しても、参加してくれないなどの問題点が出されています。

子どもを取り巻く環境は社会、経済情勢の変化により大きく変わってきています。子どもへの虐待や犯罪の被害者となる事件が度々報道され、大きな社会問題ともなっている現在、子育てについては早急な対応が望まれます。

### 現在の子育てについて

#### ■問題点

1. 子育ての質
  - ・親の子育てに対する考え方が変化してきている。具体的には子育てを重要と考えない親が増えている。
  - ・子どもとの心のふれあいができない親が増えている。時間があってもコンビニで朝食をすませてそのまま保育園に行くような親もいる。
  - ・制度が整い、できることもやらない状況になりつつある。
2. 子育ての環境
  - ・出産で職場を離れた女性は、ほとんどが正社員として戻れない。現実には育休を利用できない。
  - ・女性が主に子育てを行うことが多く、男性の育児への関わりが少ない。
  - ・虐待はストレスが原因。夫婦のパートナーシップがうまくいかない家庭が多いのではないか。
3. 子育ての悩みの相談システム
  - ・子育てについての悩みを相談できる体制がまだまだ不十分である。
  - ・親が仲の良い人同士でグループ化し、横のつながりはあるが、縦のつながり

がなくなっている。

- ・子育ての講座を開催しても意識が低い親は参加しない。

## 改善策の提案

### ■市民ができること

- ・自分の子どもは自分で育てることを基本として考える。
- ・子育てには父親の協力が必要。男女がお互いに出来ることをカバーし合うような、家庭におけるパートナーシップの確立。
- ・子育ては楽しく、大切なことだと、経験者が若い人たちに伝えたり発信する。
- ・間違った考えの人には気がついた時に周りの人が言ってあげる。地域で子育てを行う。
- ・男女がお互いに出来ることをカバーし合う。

### ■市ができること

- ・子育てしながら安心して働くには、市内の病院でも病児保育が必要。
- ・保育園・集団保育のシステムは十分整っているのに、小さな融通のきく託児所のような場所の設置を検討してはどうか。
- ・ミニ集会や勉強する場を提供し、若いお母さん達に参加してもらい、子育て観や悩みを話し合えるようにすることが必要。
- ・子育てに対して、考え方の違う人の話し合う場の設置、機会の提供。
- ・出産後の復帰や育児のための環境を整えるよう、企業への働きかけを行う。
- ・学童クラブ以外にも、保護者が仕事から帰ってくるまで、地域に放課後子どもを預ける場所が欲しい。

## 意見・提言のまとめ

ごみは生活する上で必ず発生するものです。現代社会では膨大な量のごみが安易に廃棄され、社会問題ともなっています。このままごみを出し続けることは、最終処分などの問題から未来の子どもたちに大きなつけを残すことにもなります。この問題を解決しようと容器、家電、自動車などのリサイクル法が施行されましたが、市で処理するごみの量は20年ほど前から横ばい状態です。

では、ごみ減量のために、私たちには何ができるのか、何をしたらいいのか話し合いを進め、みんながわくわくするような具体的な目標を持って取り組む必要があるということでも話がまとまりました。その目標とは、ごみを出さないことが大切との視点から「日本で一番ごみが出る量が少ないまち」をめざすことであり、下記にある意見はその実現のためにグループで話し合った内容をまとめたものです。

### 「日本で一番ごみが出る量が少ないまち」をめざして

#### ■問題点

- ・今は物が安いので、すぐ買い替えるのでごみが出てしまう。
- ・生ごみはモデル地区のほか拠点回収を行っているが、参加者が少ない。
- ・生ごみは資源化にお金がかかる。堆肥化すれば資源となるが、燃えるごみにすると、環境上も好ましくない。
- ・庭や畑がなくても生ごみの自家処理ができないものか。
- ・お店で商品を販売するとき、トレーなどを使用する販売方法はごみを増やすことにつながる。
- ・ごみ減量に対する意識に差がありすぎる。
- ・ごみ減量や、ごみを出さない暮らしに対する市民の意識を高める必要がある。
- ・プラスチック類などを分別回収する必要もある。

#### ■改善策

##### 個人ができること

- ・一つの方法に限定しないで、自分ができるごみの減量から始めることが大切だ。
- ・買い物の際にはマイバックを使い、レジ袋をもらわない。
- ・エコクッキングで調理のときに出るごみを最小限にする。

- ・生ごみの堆肥化に協力する。敷地の関係で難しい場合、燃えるごみではなく生ごみの拠点回収に出すようにする。
- ・EM菌を使ったボカシによる生ごみの堆肥化に取り組む。
- ・畑等がなくてもできる、土壌改良剤を使った生ごみの堆肥化に取り組む。
- ・過剰包装など、ごみになる物を家庭に持ち込まない。
- ・余計なものは買わない。
- ・ごみを焼却することは、将来の子どもたちに危険を及ぼすことにつながるという危機感を持つ。
- ・今の生活のままごみを減らすのは不可能。まず意識を変えることが必要。
- ・ものを大切に、ごみを出さないようにする。

### お店ができること

- ・トレーを使用しての販売方法を改める。
- ・過剰包装はしない。
- ・レジ袋の単価を表示し、買い物客に袋がタダでないことを認識してもらう。
- ・ごみを減量するため、販売者として何ができるかを考える。

### 市ができること

- ・具体的な到達点や目標、ガイドラインなどを決め実行する。市民がわくわくするような目標が望ましい。
- ・ごみの焼却量を減らすため、全市域での生ごみ分別回収、資源化を実現する。
- ・生ごみの拠点回収をもっとPRし、参加者を増やす努力をする。
- ・生ごみを堆肥化する様々な方法を市民に周知する。
- ・ごみの焼却は環境への負荷が大きいことを認識する。
- ・保育園や学校などを通じて、子どもたちからごみ問題に関する教育をする。
- ・ごみの分別回収品目を増やしていく。
- ・個人の活動には限界があるので、衛生自治会やエコライフ岡谷などを中心に、組織的にごみ減量に取り組むシステムをつくる。
- ・個人の意識を変えるための啓発活動に努める。

### ■その他の意見

- ・ごみが出たらリサイクル、生ごみは堆肥化すればごみが減るという考え方を改める。ごみ自体を出さないのが重要ということをもっとPRし、認識を持つ。
- ・生ごみの堆肥化は費用がかかるが、燃やしても灰の処理に費用がかかる。同じお金をかけるなら、ごみも有効に活用する方法を考えてほしい。
- ・生ごみを自分の家でコンポストなどを使い処理する人と、普通に回収に出す人で

差が無いのはおかしい。有料にするなど何らかの差別化が必要ではないか。

- ごみの減量には有料化が一番いいと考えられるので、早く有料化するべきだ。
- 年間のごみ袋の量を決め、それ以上ごみを出す場合は有料にしてはどうか。
- 生ごみを処理して堆肥がどのくらいできて、何に使うかまで分かれば、分別する人のやりがいにつながる。





市民総参加のまちづくりサロン

市民に親しまれる新病院

## 意見・提言のまとめ

病院を取り巻く環境が大きく変化する中、市立岡谷病院と健康保険岡谷塩嶺病院が経営統合を果たしました。少子高齢化、疾病構造の変化、医療技術の向上などから、市民の病院に対するニーズは多様化し、経営の健全化や、将来にわたり良質な医療を提供するために、今後二つの施設統合は避けられないことであると思います。

私たち「市民に親しまれる新病院」グループは、市民の視点から、次の段階の施設面での統合や、新病院の理想像について話し合いを進めました。

ここで出た意見は理想の病院を目指すものであり、経営的には難しいこともあるかと思いますが、市民病院として努力していただき、市民に親しまれる病院になることを願います。

### 市民に親しまれる新病院にするには

#### ■建設場所について

岡谷市病院統合基本計画の中にある、3箇所の敷地案だけでなく、その他にも候補地があるのではないか、ということを出発点に話を進めました。

#### ・現在の岡谷病院の敷地（市役所の周辺）

高齢者が通いやすく、また市内のどこからでも通うのに便利である。また病院は行政の近くにあっていい。

#### ・現在の塩嶺病院の敷地

病院に療養や癒しを求めるなら、郊外にあった方が環境がいい。また塩嶺病院の名前を経営に活かす事ができる。

#### ・現岡谷病院敷地と、西側文化センター跡地

広い敷地を確保するため、両方の敷地を使う。数十年後に病院を建て替える際、隣の敷地に移ればいいので、建設地の心配がない。引越し費用も安くすむ。

#### ・諏訪湖の付近（岡谷南高校の付近）

近隣市町村（下諏訪）からの患者を考えるとこの場所がよく、市民も早く到着でき、マイカーで通うのに便利。道路が狭ければ整備する。

#### ・その他の場所

周辺市町村から来院する患者のことを考慮すると、基本計画にある3箇所だけに絞らなくてもいい。

## ■理想の病院について

新病院を建設するにあたり、理想の病院像について話し合いました。

### ・医師と患者の信頼関係を築ける体制の確立

病気は医師と患者の信頼関係で治すものであるため、この関係を築けるような体制の構築。

### ・病院のセールスポイントを考える

塩嶺病院の心臓部門はそのまま生かし、諏訪周辺に無い糖尿病部門の充実を図る。心臓と糖尿の2つの部門を核とした病院を目指す。

### ・医師の充実

患者をたらい回しにするような状況にならないよう、医師の人数を充実させる。また、近隣の医療機関との連携を強化する。

## ■病院（市）のすべきこと

新病院になった時だけでなく、現段階で病院側のすべきことについて話し合いました。

### ・市民（患者）に対して奉仕の努力をする

市民病院なのだから、多少赤字だとしても企業努力を行い市民に奉仕するような病院を目指す。

### ・病気の人を減らす活動をする

患者にならないためのセミナーなどを行い、市民に対し、開かれた病院をアピールする。またここで病院の進む方向を示す。

### ・サービスの良い病院にする

病院もサービス業と考え、患者が通いたくなるような病院になるよう努力する。

## ■市民のすべきこと

新病院を建設するにあたり、市民がすべきこと（できること）について話し合いました。

### ・市民病院を支える会の設立

諏訪日赤病院のように、ボランティアの人が玄関先の掃除を行うなど、市民が病院を支える姿勢を示す。

### ・病院事業管理者を信頼し、改革を任せる

今の管理者を信頼し、改革が進むよう市民が支える。

### ・病院を知り、意見を出す

市民が病院のことについて理解し、気がついたことがあれば意見を出す。

市民総参加のまちづくりサロン

その他の意見

## 意見・提言のまとめ

### 賑わいを取り戻すために

#### ■ 中心市街地活性化についての提言

昔の賑わいを取り戻すためには、何をしたらいいのかについて話し合いました。

##### ・ 市民主導のイベントの開催

下諏訪の三角八丁のように市民が主導し、商業会、ボランティアグループなどが集まり、自分たちが出来ることを力をあわせて一緒に行うイベントの開催。

##### ・ 定期的なイベントの開催

普段は人が少ない中心市街地も、イベントを開催すれば人が集まる。定期的に開催し、活性化につなげる。

##### ・ 空き店舗を使ったサロンの設置

空き店舗を利用し、子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄れるようなサロンを設置する。

##### ・ レトロなお店の開店

昭和 30 年代の頃のお店をつくる。

##### ・ 通りの標識の設置

市外から来た人に通りの場所がわかりにくいため、標識を設置する。

##### ・ 営業しているお店とそうでないお店の明示

シャッターが閉まっているお店が多いが、定休日か閉店した店か分からないので、区別する表示をする。

## 安心して暮らすために

### ■災害を教訓にしての意見・提言

7月の豪雨災害について思っていること、考えていることについて話し合いました。

#### ・横河山のような山の管理方法

横河川は昔よく氾濫したようだが、最近は無くなった。現在のような管理方法を徹底し、その必要性をもっとアピールしてもいい。

#### ・ボランティアの仕事

今回の災害では市の職員が献身的に頑張っていたが、それをボランティアに任せてもよかったのではないか。

#### ・川の周辺の住民

川の近くの人には川を見て異常があったらすぐ市役所へ知らせる必要がある。治水は重要である。

#### ・防災訓練について

今回の災害を教訓に、どう市民を助けるかを考え、より実践的な訓練にした方がいいのではないか。

#### ・ボランティアセンターの体制強化

万が一今回のような災害が起こった場合、スムーズに対応できるよう、体制を強化しておく。

市民総参加のまちづくりサロン

# 意見・提言のまとめ 回答集

平成18年度  
～市民総参加のまちづくりサロンから～

## 「意見・提言のまとめ」への回答集について

市民総参加のまちづくりの更なる推進のため、平成18年5月、市民総参加のまちづくりサロンがスタートいたしました。12月までに計7回の会議を行い、のべ120人の市民の皆様に参加していただきました。

このサロンで出た意見は「意見・提言のまとめ」として、冊子にまとめていただき、これにつきましては、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

また、12月18日に行われた第7回サロンでは、まとめの中の市への提言に対して、後日回答することを参加者の皆様にお約束してありましたので、この回答集を作成いたしました。

これからも、市民総参加のまちづくりの推進にご理解、ご協力をお願いいたします。

### 目次

①子育てしやすい環境づくりへの回答……………	1～2
②ごみ減量と私たちの暮らしへの回答……………	3～8
③市民に親しまれる新病院への回答……………	9～12
その他の意見への回答……………	13～16

## 「意見・提言のまとめ」への回答

### ■市ができることについて回答します。

- ・子育てしながら安心して働くには、市内の病院でも病児保育が必要。

(回答) 子育て支援の上で、病児・病後児保育は必要な事業の一つとして認識しております。

平成16年度策定した、次世代育成支援対策岡谷市行動計画では、市内での設置箇所1カ所での実施という数値目標を設定しており、現在、19年度の実施に向けて、細部の検討をしているところです。

- ・保育園・集団保育のシステムは十分整っているのに、小さな融通のきく託児所のような場所の設置を検討してはどうか。

(回答) 岡谷市では、通常の保育とは別に、保育園での長時間保育や、一時預かり・休日保育を充実させてきており、0歳から就学前のお子さんまで対象としています。

融通のきくという部分の内容について、どのようなことが具体的にお話いただければ、子育て支援として、できるだけ対応してまいりたいと思いますので、ご相談いただければと思います。

- ・ミニ集会や勉強する場を提供し、若いお母さん達に参加してもらい、子育て観や悩みを話し合えるようにすることが必要。

- ・子育てに対して、考え方の違う人の話し合う場の設置、機会の提供。

(回答) ミニ集会や、勉強する場、話し合いの場等は、市役所の様々な担当でいろいろ実施しています。PRが不足している部分もあり、知らないでいる方もいらっしゃるかと思われますので、広報や、ホームページ等で広報してまいります。

また、現在、市役所の様々な担当で実施している子育ての支援事業について一元化し、わかりやすく情報を提供できるような子育て支援マップの作成、わかりやすいホームページの掲載等も行う予定であります。

- ・出産後の復帰や育児のための環境を整えるよう、企業への働きかけを行う。

（回答）労務対策研修会などの際に、完全週休2日制の普及促進、有給休暇の取得促進、残業等の所定外労働の削減、フレックスタイム制の導入など、弾力的な勤務形態の導入について企業の理解を得るためにPRをし、協力を依頼します。

- ・学童クラブ以外にも、保護者が仕事から帰ってくるまで、地域に放課後子どもを預ける場所が欲しい。

（回答）生涯学習課では学童クラブを運営していますが、その対象者は保護者が就労している小学1年から3年までの児童としています。現時点では、4年生以上までの拡大は考えておりません。

文部科学省が来年度から取組みを進めようとしている「放課後子ども教室」は、子どもを預かる事業ではありませんが、学校の放課後に子どもが安全に安心して遊ぶことができる居場所を学校内に確保しようとするものです。参加できる児童は、保護者の就労の有無に関係なく、すべての児童を対象としています。

生涯学習課では、今後「放課後子ども教室」の実施の有無について、学童クラブの在り方も含めて検討していく予定であります。

#### ○12月18日のサロンで出た意見

- ・学童クラブ以外にも、家の近くで子どもを預かってくれる場所が欲しいという話を聞きます。今カルチャーハウスということをやっている、周りに空き地があるので、外で子どもの遊べる場所をつくりたいのですが、個人で行うと費用がかかりすぎるので、県や市の支援があれば受けたいのですが、可能でしょうか？

（回答）どのようなものをつくろうとしているのかなど、詳しい計画をお聞きしないとわかりませんが、何かご支援できることがあれば協力したいと思いますので、ご相談ください。



## 市民総参加のまちづくりサロン

### ごみ減量と私たちの暮らし

# 「意見・提言のまとめ」への回答

#### ■市ができることについて回答します

- ・具体的な到達点や目標、ガイドラインなどを決め実行する。市民がわくわくするような目標が望ましい。

（回答）基本的には、「岡谷市後期基本計画」、「環境基本計画」等で示された施策により進めていくことですが、具体的には、平成17年3月作成の「湖周ごみ処理基本計画」に基づき、ごみ減量、3Rの推進計画に沿って進めております。現在、湖周の計画施設建設まで19.6%のごみ減量を図るとしてしておりますが、さらにごみ減量を一層進めていくため現在見直し検討がされております。わくわくするような目標とのことですが、かなり大きな目標となるものと思われ、市民の皆さんの絶大な協力なくしては達成できないものであり、市も全力を挙げて進めてまいりたいと考えております。

- ・ごみの焼却量を減らすため、全市域での生ごみ分別回収、資源化を実現する。

（回答）現在、公共施設（保育園、小中学校）と、一般家庭3地区（鮎沢区・新屋敷区・中屋区）において生ごみの分別回収と資源化を実施しております。

生ごみは、可燃ごみの中の約3割を占めており、焼却量を減らすには、この生ごみの減量と資源化が重要であり、今年度実施のモデル地区での状況を検証し、また市の財政状況等を勘案する中で進めてまいりたいと考えております。

- ・生ごみの拠点回収をもっとPRし、参加者を増やす努力をする。

（回答）現在、一般家庭生ごみリサイクル事業を3地区（鮎沢区・新屋敷区・中屋区）において実施しております。拠点回収については、一般家庭生ごみリサイクル事業を実施する際に各種団体より要望があり、市役所及び3支所に回収袋を設置いたしました。利用者については、まだ少ないですが、今後、エコライフ岡谷・衛生自治会等を通じてPRしてまいりたいと考えております。

- ・ 生ごみを堆肥化する様々な方法を市民に周知する。

(回答) 生ごみの堆肥化については、様々な方法があり、大きくは、コンポストと電動生ごみ処理器を活用した方法が主力と思われます。コンポストの活用等につきましては、衛生自治会の斡旋普及の中で生ごみ勉強会を開催してきました。

また市でも生ごみ堆肥化のパンフレット等を作成し普及啓発を図っており、今後、一般家庭生ごみリサイクル事業の委託業者、あるいは有識者等からの情報を得る中で研究をし、市民の方々へ周知してまいりたいと考えております。

- ・ ごみの焼却は環境への負荷が大きいことを認識する。

(回答) 今年度、ごみ減量月間の中で各地区の衛生自治会の皆さんが積極的に清掃工場の見学、樋沢最終処分場の見学をしていただきました。

また、市民見学会も行われており、こうした見学会等を通して、ごみに対する認識を深めていただければ大変ありがたいと思っております。

- ・ 保育園や学校などを通じて、子どものころからごみ問題に関する教育をする。

(回答) 子供の頃からごみ問題も含め環境全般に関心を持ってもらうことは大変重要なことと認識しております。ごみ問題につきましては、エコライフ岡谷の環境教育部会において、平成16年度は保育園児対象の紙芝居「よいこのごみ教室、ペン助とお話しよう」を作成し、全園に贈呈をいたしました。17年度については、小学生を対象に環境ビデオ「考えよう、くらしとごみ」を作成し、全校へ贈呈をいたしました。今年度は、環境標語を募集するなどエコライフ岡谷と市との協力により子供の教育に取り組んでいるところであり、今後につきましても継続して事業を実施してまいりたいと考えております。

また、工場見学等を積極的にしていただくことでごみ問題に興味を持っていただき環境教育の一環に出来ればよいのではないかと思います。

- ・ ごみの分別回収品目を増やしていく。

(回答) 資源物については、市民の皆さんの協力により現在8種類、17品目の分別回収を行っており、このほかに今年度より、一般家庭の生ごみと剪定樹木のリサイクルに取り組んでおります。

なお、まだ未実施のものは容器リサイクル法での「その他のプラスチック」であります。今後の回収計画につきましては、岡谷市分別収集計画に基づいて進めてまいりたいと考えております。

- ・個人の活動には限界があるので、衛生自治会やエコライフ岡谷などを中心に、組織的にごみ減量に取り組むシステムをつくる。

（回答）ごみ減量につきましては、循環型社会の構築のため、市民、事業者、行政の連携による3Rの推進が重要と考えております。

こうした取り組みに、各地区の衛生自治会、エコライフ岡谷の皆さんは中核団体として積極的な活動に取り組んでおり、今後も一層連携を図り進めてまいりたいと考えております。

- ・個人の意識を変えるための啓発活動に努める。

（回答）ごみ減量、3Rの推進には市民の積極的な参加と意識の高揚が大変重要であると考えており、住民、事業者、行政がそれぞれの役割を分担し、自らのライフスタイルの見直しと、それぞれの協力体制が不可欠であると考えております。今後、衛生自治会、エコライフ岡谷等の関係団体と協力して情報の共有を進め、環境教育の充実を図り、一層3Rの推進を図ってまいりたいと考えております。

- ・ごみが出たらリサイクル、生ごみは堆肥化すればごみが減るという考え方を改める。ごみ自体を出さないのが重要ということをPRし、認識を持つ。

（回答）ごみ減量では「大量リサイクル」に名前を変えただけにならないよう、ごみ量そのものを減らすライフスタイルの転換を図ることが重要であり、ご指摘のように、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）を優先し次にリサイクル（再資源化）を進めることが、ごみを減らし、ごみを作らない社会の実現につながってくるものと考えており、こうした3Rの推進のPRを一層進めてまいりたいと考えております。

- ・生ごみの堆肥化は費用がかかるが、燃やしても灰の処理に費用がかかる。同じお金をかけるなら、ごみも有効に活用する方法を考えてほしい。

（回答）現在、市内小中学校等の公共施設の給食調理残渣の生ごみをリサイクルし資源化しておりますが、できた堆肥は、学童農園や花壇等に利用し、また、農園で出来た野菜類等は給食の材料として利用するなど、循環システムが進められている学校もあり、こうした取り組みが大変重要であると考えております。現時点では、生ごみの活用としては堆肥利用が良いものと考えております。

・生ごみを自分の家でコンポストなどを使い処理する人と、普通に回収に出す人で差が無いのはおかしい。有料にするなど何らかの差別化が必要ではないか。

(回答) コンポストを使用できる場所がない人、堆肥化しても使用することが出来ない人等があり、出す人に差をつけることは難しいものと考えております。

今後ごみ処理の有料化の実施に際しては、自家処理する人も、回収に出す人も共に公平性が保たれるような方式等について研究してまいりたいと考えております。

・ごみの減量には有料化が一番いいと考えられるので、早く有料化するべきだ。

(回答) ごみ減量の有効な施策であり、有料化については、岡谷市行財政改革プラン及び湖周ごみ処理基本計画等を勘案して検討してまいります。

・年間のごみ袋の量を決め、それ以上ごみを出す場合は有料にしてはどうか。

(回答) 有料化を実施する際の一つの方法であると考えますので、研究してまいりたいと考えております。

・生ごみを処理して堆肥がどのくらいできて、何に使うかまで分かれば、分別する人のやりがいにつながる。

(回答) 生ごみ処理器には、いろいろな機種があり、一概に言えませんが、市で実施している生ごみの処理につきましては、回収された生ごみを回収量の約5分の1に減容し堆肥化されます。仮に100キロの生ごみを堆肥化すると約20キロの堆肥が作られます。この堆肥は、必要に応じて公共の保育園、小中学校等の学童農園・花壇等に利用され、この堆肥で育てた野菜などを給食の食材として活用されております。

なお、生ごみの処理方法、堆肥の量、使用方法等については、現在市で委託している業者等に依頼して勉強会などが出来れば良いのではないかと考えます。

### ○12月18日のサロンで市長発言

・市では生ごみ処理のコンポスト補助を行い、市民の皆さんにごみ処理を協力していただき、その結果がどうなっているかできるだけ調べたいと思います。それを次のステップにつなげたい。出来るだけ調べてみます。

(回答)生ごみ処理器の補助につきましては、平成10年度から補助事業を行い、現在、コンポスト・密閉容器・電動式処理機を合わせまして、3,495世帯に普及しており、普及率は約18%となっており、それぞれ有効活用されているものと思われます。鮎沢区におきましては、普及率が50%となっております。なお、コンポストについては、平成10年度・11年度の普及世帯が多く、すでに8年ほど経過しておりますが、その活用方法等について出来るだけ調査をしてみたいと考えております。

### ○12月18日のサロン参加者アンケートからの意見

・岡谷はプラスチックについてどう考えているのでしょうか。他の市町村では分別している所が多いのですが・・・。ごみの中でとても多くの量を占めています。

(回答)プラスチックの分別回収については、現在、容器リサイクル法で示されているところのペットボトルと白色トレイについては分別回収をしておりますが、その他のプラスチックについては、ごみ処理の有料化と併せて検討してまいりたいと考えております。

・エプソンのプリンターカートリッジ回収を、小学校にBOXを置いてやっていますか？岡谷はやっていない。下諏訪はやっているのに何故？

(回答)下諏訪町教育委員会に問い合わせたところ、エプソンのプリンターカートリッジ回収は学校独自の取り組みであり、全校で実施しているわけではないとの回答でした。

また、岡谷市では東部中、小井川小で行っており、資源の回収という意味合いではなく、ベルマークを集めることが目的です。

市としては、この回収については学校独自の取り組みとして考えております。今後はカートリッジ回収の内容を検討し、各学校への周知を図っていきたいと考えております。

市民総参加のまちづくりサロン

市民に親しまれる新病院

## 「意見・提言のまとめ」への回答

### ■市ができることについて回答します

○新病院の建設場所については、次の場所がいいのではないかと。

- ・現在の岡谷病院の敷地（市役所の周辺）
- ・現在の塩嶺病院の敷地
- ・現岡谷病院敷地と、西側文化センター跡地
- ・諏訪湖の付近（岡谷南高校の付近）
- ・その他の場所

（回答）両病院の統合につきましては、昨年4月、地方公営企業法の全部適用病院として、病院事業管理者を置き、両病院の経営を統合した「岡谷市病院事業」が新たにスタートいたしました。

以降、病院事業管理者を中心に、医師、看護師等職員の一体感を醸成するとともに、両病院の経営改善及び診療科目の統合と機能分担に向けた取組みが行われ、契約行為の一本化をはじめ、外科診療部門の統合がなされるなど着実にその成果をあげてきているところであります。

統合の最終段階であります新病院建設場所につきましては、新病院建設に向けてのガイドラインとして、病床規模、診療科目、敷地計画、施設規模などを定めた「岡谷市病院統合基本計画」全体につき、パブリックコメントを実施するとともに、計画で例示いたしました、文化センター跡地、現市立岡谷病院敷地、駅南土地区画整理事業用地の3つの候補地等について、財政的な部分やまちづくりの視点を交え、病院事業と調整を図りながら多角的に検討を進めてまいりました。

建設場所の決定にあたりましては、基本的にはどのようなコンセプトを持った病院をつくっていくのか、そのコンセプトを踏まえ、財政面やまちづくりの視点、医療的見地など様々な面から検討を加え、どこが新病院にふさわしい場所なのかを決定していくべきであると考えております。

新病院の建設は数十年に一度の大きな事業であります。候補地ごとにそれぞれ長所、短所がありますが、パブリックコメントやまちづくりサロンの皆さんからいただきましたご意見を参考にしながら、3月までには市としての一定の考え方を示してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

・ 医師と患者の信頼関係を築ける体制の確立

病気は医師と患者の信頼関係で治すものであるため、この関係を築けるような体制の構築。

（回答）医師と患者の信頼関係につきましては、患者さんが病院で診察を受けるのには、医師を信頼して、受診され診療を受けられると思います。

両者の信頼関係がなければ病院は成りって行かないと考えられますし、信頼された医療を行うのに医師だけでなく、全職員が市民や患者さんに信頼される病院を目指さなくてはいけないと考えております。

・ 病院のセールスポイントを考える

塩嶺病院の心臓部門はそのまま生かし、諏訪周辺に無い糖尿病部門の充実を図る。心臓と糖尿病の2つの部門を核とした病院を目指す。

（回答）現在岡谷病院においては、総合病院としての機能があり多くの市民が診察を受けておりますし、塩嶺病院においては、循環器病院として広い範囲から患者さんが訪れております。

新病院における特化した病院といたしましては、ご提言をいただきました心臓部門や糖尿病部門について検討をしていきたいと考えております。

・ 医師の充実

患者をたらい回しにするような状況にならないよう、医師の人数を充実させる。また、近隣の医療機関との連携を強化する。

（回答）医師確保につきましては非常に厳しい状況にある中で、様々な方法により対処しているところでありますが、今後も最大限の努力をしてまいりたいと考えております。

又、近隣医療機関との連携につきましては、積極的な検討を図り患者様にご迷惑のかからないようにしてまいりたいと考えております。

・ 市民（患者）に対して奉仕の努力をする

市民病院なのだから、多少赤字だとしても企業努力を行い市民に奉仕するような病院を目指す。

（回答）病院経営におきましては、健全経営を行うことが重要であると考えております。

平成18年4月からは、両病院の運営に当たり事業管理者を置き、岡谷市病院事業として統合を進めてまいりましたが、これからも病院事業管理者を中心に、病院運営について更なる努力をしていただくよう、お願いしてまいりたいと考えております。

・病気の人を減らす活動をする

患者にならないためのセミナーなどを行い、市民に対し、開かれた病院をアピールする。またここで病院の進む方向を示す。

(回答) 現在も病院として糖尿病教室や外部講師による講演会の実施、ペースメーカー友の会の開催など病気や予防対応等幅広い活動を実施しておりますが、今後もこれらの教室等積極的に開催し市民の健康管理にも取り組める病院も目指して行きたいと考えております。また、健康推進課・スポーツ振興課等と連携を取り市民の健康増進にも努めてまいりたいと考えております。

・サービスの良い病院にする

病院もサービス業と考え、患者が通いたくなるような病院になるよう努力する。

(回答) 医療機関におけるサービス向上は、今後最も重要な問題として取り組んでおります。

感じの良い病院、明るい病院、親切な病院等サービス面の向上が図られるよう今後とも努力してまいりたいと思います。



## 「意見・提言のまとめ」への回答

### ■市ができることについて回答します

#### 賑わいを取り戻すために

#### ■中心市街地活性化についての提言

##### ・市民主導のイベントの開催

下諏訪の三角八丁のように市民が主導し、商業会、ボランティアグループなどが集まり、自分たちが出来ることを力をあわせて一緒に行うイベントの開催。

##### ・定期的なイベントの開催

普段は人が少ない中心市街地も、イベントを開催すれば人が集まる。定期的に開催し、活性化につなげる。

##### ・空き店舗を使ったサロンの設置

空き店舗を利用し、子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄れるようなサロンを設置する。

##### ・レトロなお店の開店

昭和 30 年代の頃のお店をつくる。

##### ・営業しているお店とそうでないお店の明示

シャッターが閉まっているお店が多いが、定休日か閉店した店か分からないので、区別する表示をする。

(回答) 平成 18 年度に岡谷商工会議所を母体として、岡谷 TMO まちなか活性化推進本部が立ち上がり、中心市街地活性化に向けソフト事業の取組みがなされようとしています。

取組方針としては、

##### ①商業活性化に関連する事業

- ・ 中心市街地における商業会の実態を踏まえ、商業活性化に向け「新しい人材育成」、「既存店の人材育成」、「地域店の生産向上」に結びつく取組み。
- ・ 各商業会で長年継続的に取り組んできた祭りやイベントを一過性に終わらせず、また、有機的に結びつけるため、「各商業会への連携・支援」の取組み。

## ②地域活性化に関連する事業

- ・「地域コミュニティの活性化」を軸として、生活の場としての活性化の推進。
- ・若者世代や高齢世代が趣味や遊び、子育てや学習など、様々な活動ができる場のコーディネート、活動に参画できる事業の提案。  
となっておりますので、以上を背景として、

### ・イベントの開催について

18年度は、岡谷TMOがコーディネートし、各商業会と市とがコラボレーションする形で、「がんばろう おかやフェスタ」を開催いたしました。今後はより民間主導の要素の強いものとしていきたいと考えております。その他のイベントについても協働の考え方を取り入れながら、皆さんに親しまれる内容としていきたいと考えております。

### ・サロン設置について

市、TMO、地元商業会、ボランティア等関係者と協議してまいります。

### ・レトロな商店について

意欲のある商業者の発掘をしてまいります。

### ・営業しているお店とそうでないお店の明示

営業している店舗につきましては、定休日が分かるような表示をしていただくようお願いしてまいります。

以上TMOの活動の参考となるご提言ですので、TMOに対し働きかけてまいります。

TMO事業の実施に当たっては、商業者、市民、事業者、行政等の各関係者が互いに連携を密にしながら推進することが不可欠であると考えておりますので、今後とも岡谷TMOへご意見ご提言をお願いいたします。

- ・市外から来た人に通りの場所がわかりにくいいため、通りの標識を設置してほしい。

(回答) 岡谷市は、市民や市外からの来訪者に対し、公共施設への案内・誘導に必要な情報を提供し、道路交通の安全を円滑にするため、各施設への誘導を行う都市サインを設置しており、安全・安心なまちづくりに取り組んでおります。

都市サインの設置につきましては、公共施設等への目的地点を示すものであり、特定した「通り」への誘導につきましては、実施しておりませんが、今後の参考とさせていただきたいと思っておりますので、ご理解の程をよろしくお願いいたします。

## 安心して暮らすために

### ■災害を教訓にしての意見・提言

#### ・横河山のような山の管理方法

横河川は昔よく氾濫したようだが、最近は無くなった。現在のような管理方法を徹底し、その必要性をもっとアピールしてもいい。

(回答) 災害に強く、水源涵養等森林の持つ多面的機能が持続的に発揮できるような森林整備を行うため、森林所有者始め、広く地域の人々の参加や、ボランティア団体を含め関係機関が一体となって取り組んでまいります。

#### ・ボランティアの仕事

今回の災害では市の職員が献身的に頑張っていたが、それをボランティアに任せてもよかったのではないか。

(回答) 今回の災害では、被災地区のニーズを把握のうえ、ボランティアの皆さんには、個人宅の土砂撤去等の作業を中心に活動していただきましたが、その他にもボランティア活動に委ねても良い事業があったかもしれません。

今後は、災害の種類や規模、従事していただくための安全性の確保なども考慮し、行政で行うことが適当なこと、ボランティア活動に委ねることが適当であることを見極め、両者協力のもと対処してまいりたいと考えております。

#### ・ボランティアセンターの体制強化

万が一今回のような災害が起こった場合、スムーズに対応できるよう、体制を強化しておく。

(回答) 岡谷市社会福祉協議会では、市災害対策本部からの要請に備えて、直ちに「ボランティアセンター」が立ち上げられるよう「災害救援ボランティアセンター設置運営の手引き」をマニュアル化してあります。これについて、今回の災害を契機に、より現実的な対応ができるよう一部見直しも行っております。

さらに、ボランティアセンターに関わった団体等とも、反省会などで協力体制の強化について、確認し合いました。

今後万が一災害が発生した場合、その種類・程度・範囲などにより、柔軟に対応できるよう社協内において総括も行ってきております。

今後においても、マニュアルを基本に、研修会や訓練などを繰り返し行い、スムーズに対応できるよう配慮してまいります。

・防災訓練について

今回の災害を教訓に、どう市民を助けるかを考え、より実践的な訓練にした方がいいのではないか。

（回答）防災訓練につきましては、現在、地区分散訓練と3年に1度の総合防災訓練を実施しております。11月19日に実施しました総合防災訓練につきましても、今回の災害を教訓に「情報収集と情報発信」「避難体制の確立と誘導」「官民一体となった地域防災力の強化育成」の具体的な3つの基調を掲げ、より実践的な訓練を実施いたしました。今後も地域と一体となってより実践的な訓練を実施していきたいと考えております。